

黒毛和牛素牛 市場販売成績

(令和2年1月市場~4月市場)

1~3月市場までは順調に推移していたものの、新型コロナウイルスの影響により外食需要が激減、枝肉相場の大暴落が起こっており、素牛相場にも波及している状況です。

※取引結果については、安平町・ホクレン南北北海道市場でのもの。(取引価格は税込み)

1月市場 (1月8日開催)

販売頭数 58頭 (去勢30頭 めす28頭)
販売金額 43,380,700円 (去勢 24,112,000円 めす 19,268,700円)
平均価格 747,943円 (去勢 803,733円 めす 688,168円)

2月市場 (2月6日開催)

販売頭数 55頭 (去勢44頭 めす29頭)
販売金額 39,053,000円 (去勢 23,743,500円 めす 15,309,800円)
平均価格 710,060円 (去勢 791,450円 めす 612,392円)

3月市場 (3月4日開催)

販売頭数 62頭 (去勢35頭 めす27頭)
販売金額 45,886,500円 (去勢 27,597,900円 めす 18,288,600円)
平均価格 740,105円 (去勢 788,511円 めす 677,356円)

4月市場 (4月1日開催)

販売頭数 75頭 (去勢42頭 めす33頭)
販売金額 49,817,900円 (去勢 30,206,000円 めす 19,611,900円)
平均価格 664,239円 (去勢 719,190円 めす 594,300円)

より良い素牛づくりを目指して

新型コロナウイルスが素牛相場にも影響を与え始めていますが、過去のBSEやリーマンショックなどの安値を振り返ってみると長い事例でも6ヶ月程度で高値に転じているという話をされている専門家の方もいますが、先行き不透明な状況下にあります。

高橋義浩さんが飼養している、たかふくしき2号については今年の1月末時点で全道で2番目にサシの入りやすい子牛を生産できる繁殖雌牛となっており、高齢となってきてはいますが能力は健在です。高橋さんは本牛の娘3頭、孫2頭を繁殖として飼養しており、優良母系の形成に繋がっています。

また当地区では全道においてサシの入りやすい子牛を生産できる繁殖雌牛の上位300位の中に9頭もの繁殖雌牛が入っており、高値で売れることが間違いない雌牛たちを繁殖に回してきた成果が出てきているものと思われます。

今後ともより良い肥育素牛生産を目指して研鑽することで、新型コロナウイルスに負けない生産を維持できる結果に繋がるため、ご理解と応援をお願い致します。

道外からも
優良雌牛を導入
してきています。

